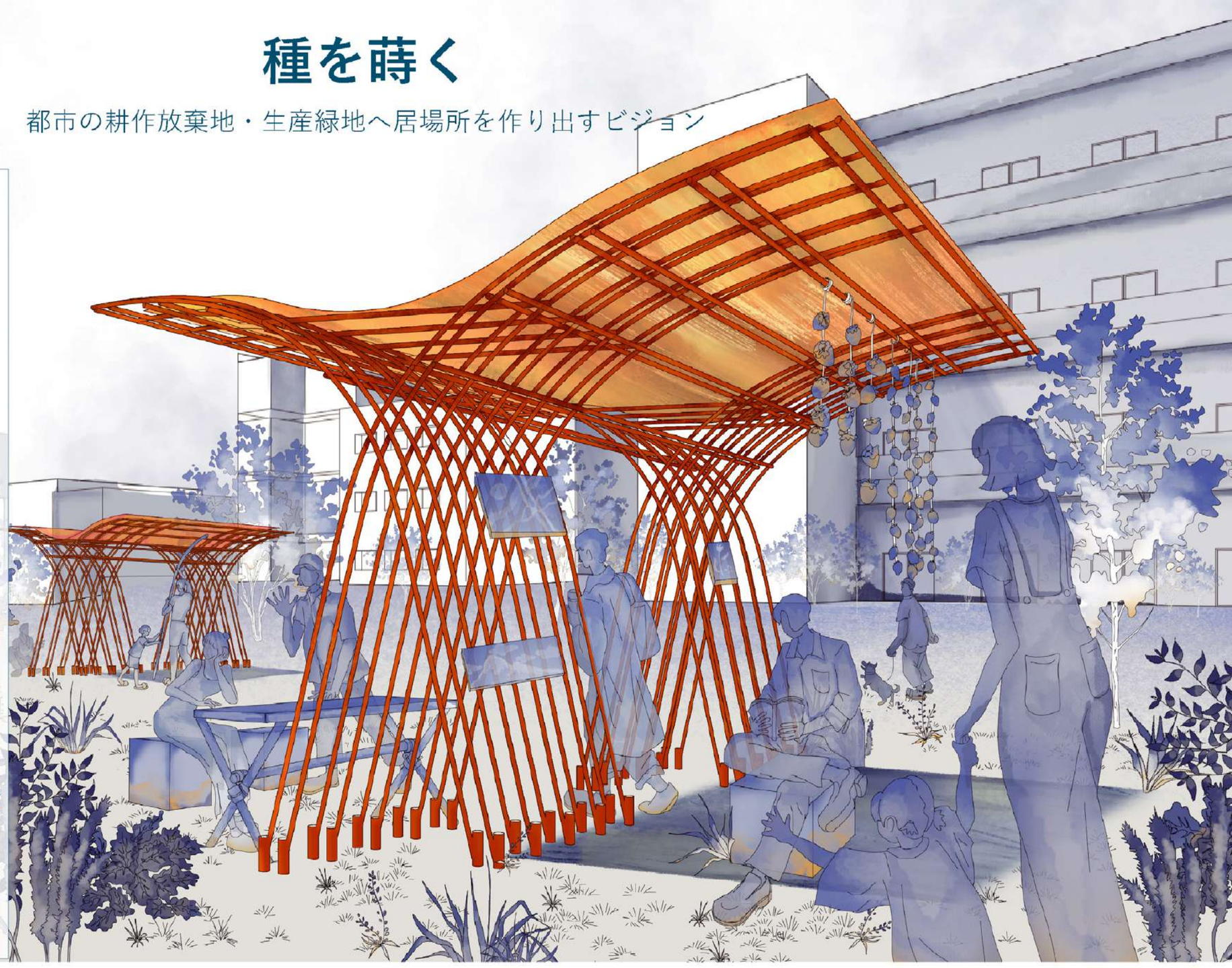
種を蒔く

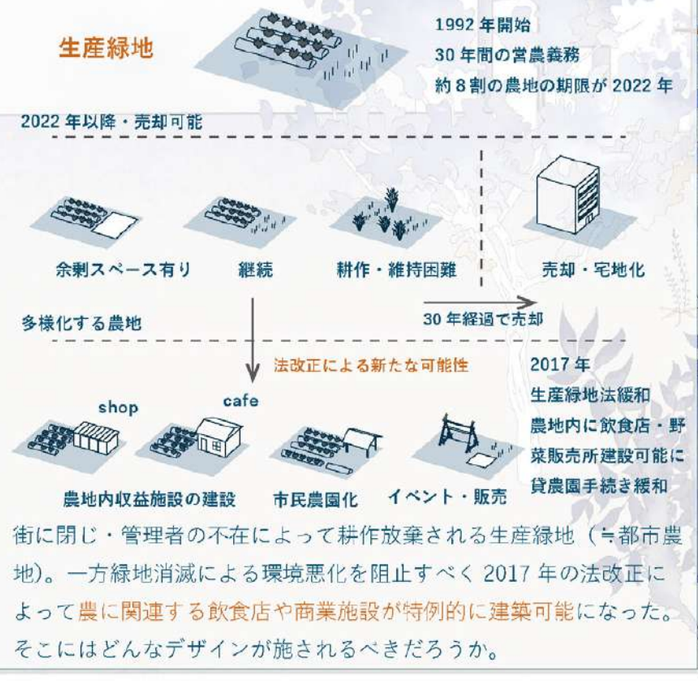
都市の耕作放棄地・生産緑地へ居場所を作り出すビジョン



00 はじめに

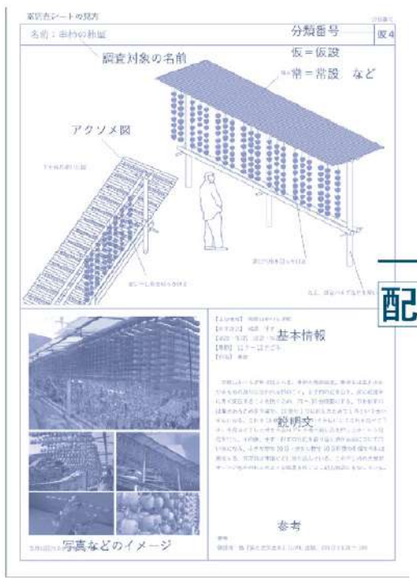
私たちは**耕作放棄などによって宅地化していく生産緑地**（都市農地）に対して農業の簡易的ディテールや知恵を引用し、**みんなで使えて育てられる・種を蒔くような場づくりのビジョン**を考えた。ビジョンの第一段階として私たちは貸し農園カフェを施主として農業用アーチパイプを用いた日除けを計画している。すぐにしまえて移動でき、点在する生産緑地にフィットする建築を目指す。

01 閉じられていた都市農地・【背景】



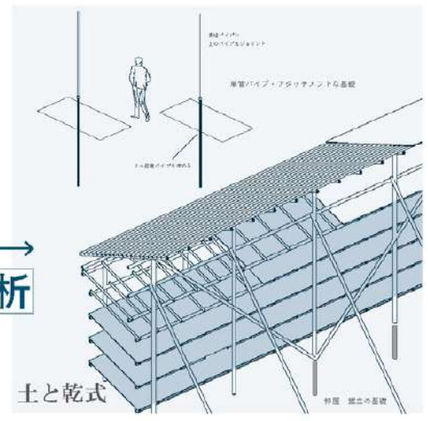
街に閉じ・管理者の不在によって耕作放棄される生産緑地（≒都市農地）。一方緑地消滅による環境悪化を阻止すべく 2017 年の法改正によって農に関連する飲食店や商業施設が特例的に建築可能になった。そこにはどんなデザインが施されるべきだろうか。

02 農地の図鑑をつくる【リサーチ】



配置

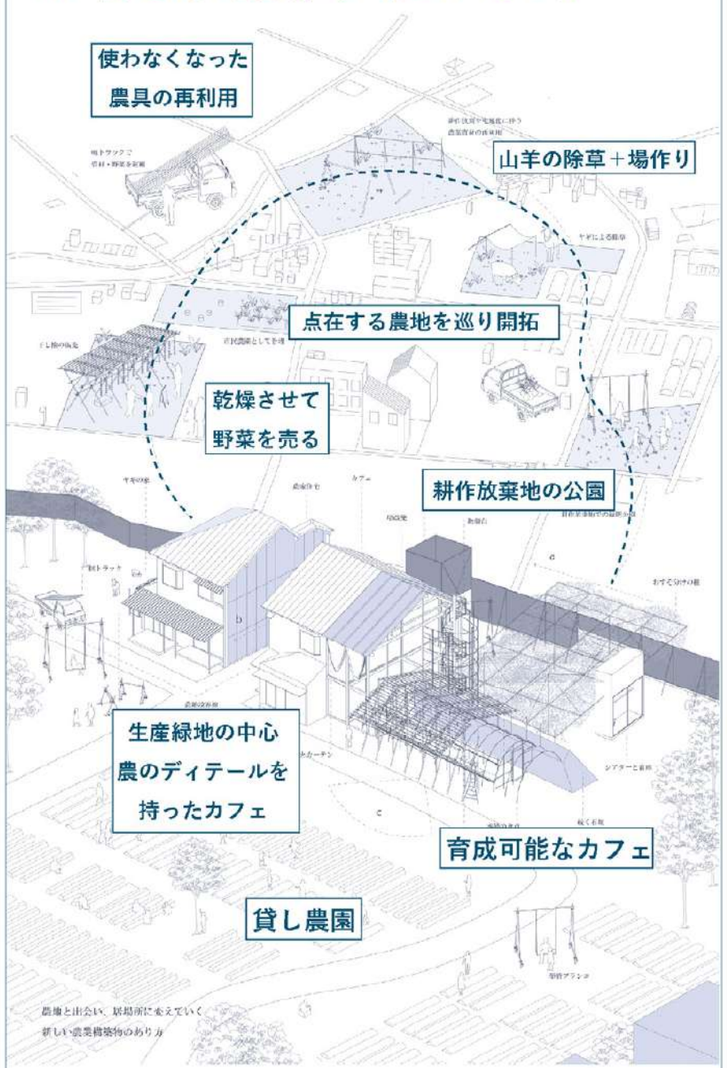
分析



農地と親和性の高い空間を作る為に、ビニールハウスから柿を干す為の小屋・観光資源にもなりうる大きな大根櫓・低コストでおおきな囲いを作るディテールなどを観察し図鑑化、それらを大きさや目的で再度まとめ観察を行い空間を作るヒントを探した。

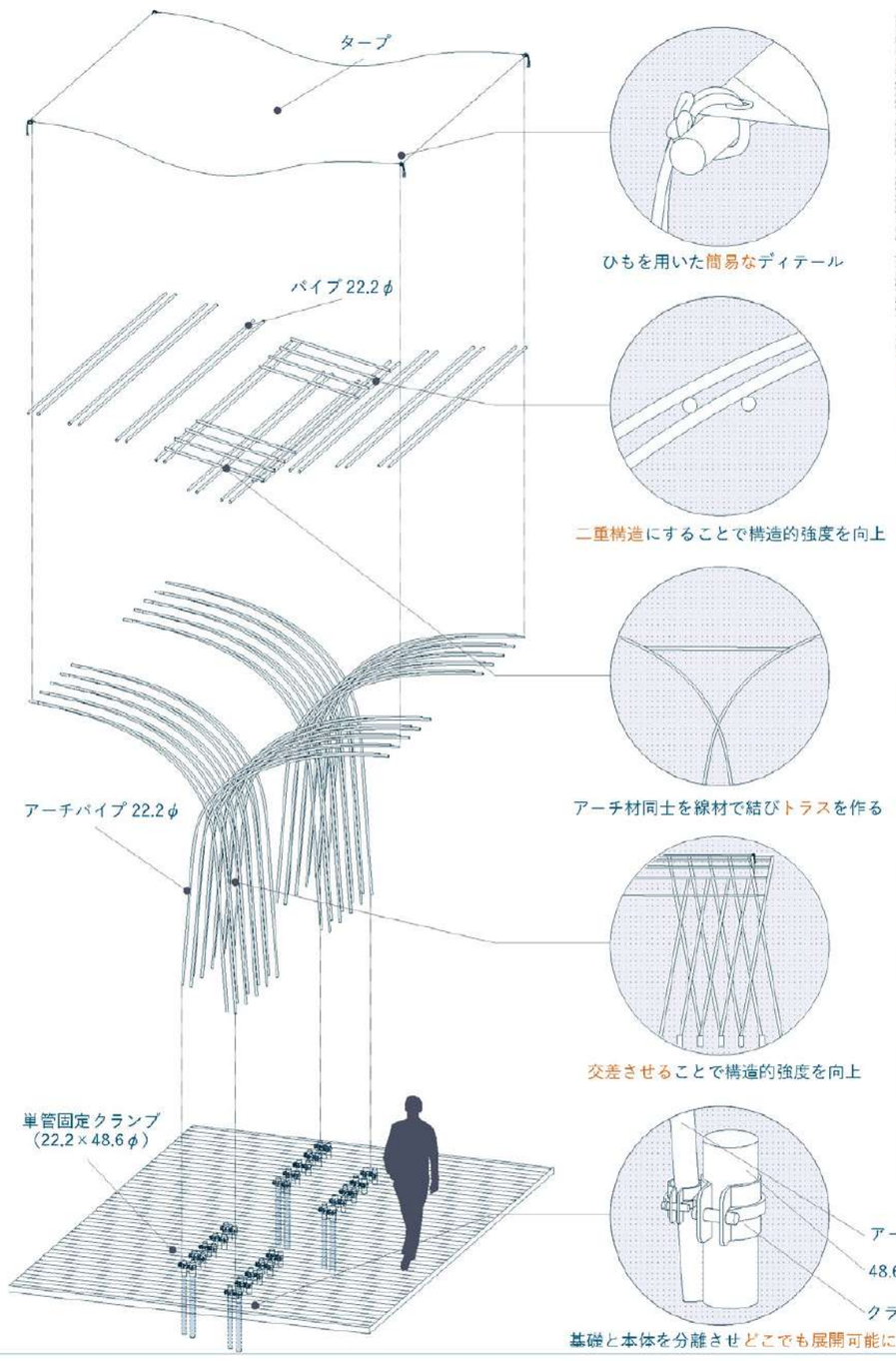
農業構築物の多くは乾式でありそれらから農業の土を尊重する姿勢が感じられる。RC で基礎を作ってしまえば堅牢になるが、作物を育てる土に戻すにはかなりの労力が必要である。慣習だけでなく法的にも RC など湿式の基礎は禁じられており、掘立などが主流である。単管パイプを埋め、そこにジョイントで次のパイプを迎えに行く。これはアタッチメント可能な基礎とも読み替えられる。

03 種を蒔く街作り【ビジョン】



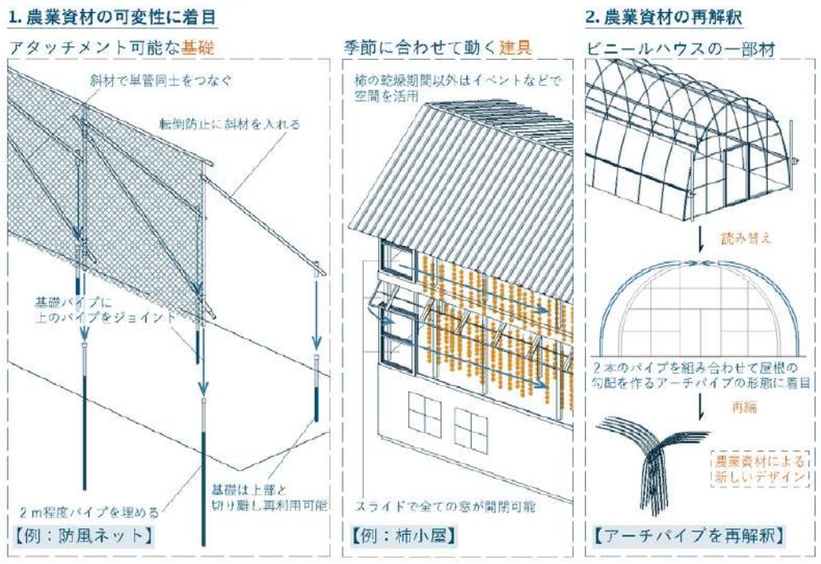
私たちは**みんなで使えて育てられる・種を蒔くような場作り**のビジョンを考えた。簡易で組み替えられる農地カフェ。農のディテールや知恵を用いた空間装置でアクティビティを生み出し耕作放棄地でイベントや商売を始めるなど…。すでにある農の風景や知恵を再編集することで農家や街の人も親しみやすい民主的な空間をめざしている。
また、農地の構築物を引用した可動式の場作りは、点在する農地を開拓し種を蒔くような現象をおこせるのではないだろうか。

04 農業用アーチパイプを用いた居場所づくり【アクション】



ビジョンの第一段階として私たちは川崎市の貸し農園カフェ「トカイナカヴィレッジ」を施主として農業用アーチパイプを用いた日除けを計画している。すぐにしまえて移動でき、周囲に点在する生産緑地にもアクティビティを生む建築を目指す。そんな日よけを農家さん達に提案している。

農地図鑑からの学び



代表者：北村さくら
dc19102@g.kogakuin.jp